

朝鮮語文法プロフィール

金 恩愛
東京外国語大学博士後期課程
野間 秀樹
東京外国語大学大学院教授

1. はじめに

本稿は朝鮮語文法プロフィールの試案である。全体は表の形式で提示してはいるが、実はより階層化されるべきものである。

朝鮮語では形態論と統辞論にまたがる文法項目が多く、2つを機械的に分類しにくいところがある。また、膠着語としての性格は、西欧の主要な言語のようにパラダイムを描くと膨大になってしまうというところがあり、これもユニバーサルな記述を試みるにあたっては、解決すべき問題となる。

また、語彙論も問題になる。そもそも語彙論を独立した分野として立てず、レキシコンのなかに押し込めてこと足れりとする文法家も多いが、語彙論をそれ自体が固有の対象を持つ分野として、文法論とは別に位置づけるとすると、品詞論は語彙論と文法論にまたがるものとなる。結果的にここでは文法プロフィールが語彙論を一部とりこむ形になる。そうした理解の上でなら、品詞論のラベルを形態論にしてもよい。

品詞のうち、語尾類のつきかたで形態論的に区別される、動詞、形容詞、存在詞、指定詞の4品詞を合わせて用言(verbal)とする。このうち日本語の「だ」と似ているといえる指定詞は、韓国の学校文法では叙述格助詞と呼ばれている。叙述格助詞の名は韓国語の学会でも批判の多い名である。ここでは古くは朴勝彬や現在の日本のほとんどの学者がそう呼んでいるように、指定詞と呼び、用言に入れる。ただし、常に主として体言類について用いられ、独立しては現れない点で、これも独立した単語とは言い難いところがある。それにもかかわらず他の用言のように活用を見せる点では単語的である。一方で英語の can や may といったようなものとはいかにも異なっており、英語やドイツ語的なあり方からすると、助動詞とするのはばかられる。

初級文法を超えると、日本語でいえば「して+いる」の2単語でアスペクトの機能に関わるといったような類の、2単語以上のシンタグマが文法的な働きをする分析的な形の項目が増えてくる。とりわけ modality に関わる形が多いが、それ以外にも豊富に存在し、こうした分析的な形を文法論に取り込もうとすると、より機能的な立場からの記述が必要になってくる。ただし、ここでは初級文法を想定しているため、分析的な形の項目は限定されている。

日本語の「して」「すると」「しながら」などにあたる、用言の接続形、つまり副動詞形が朝鮮語には豊富であるが、ここでは初級文法の範囲に限定している。

ここで格語尾や限定語尾と呼んでいるものは、働きの上から言えば、概ね日本語の格助詞や副助詞あるいはとりたて助詞に相当する要素である。形態論的には日本語の格助詞よりは語幹との結合度が強いが、ドイツ語やロシア語などの名詞類の語尾のような、単語から切り離すことのできない、いわば単語の内部にあっての最後の部分なのではなく、語幹の外側についたり離れたりすることのできる要素である。ただし自立した単語でないことは明らかで、単語の資格を持ったものとしての助詞の名も冠しがたい。接辞以上、単語以下という意味で、「助辞」というような名称も可能だが、助詞も助辞も particle としてしまうのでは意味がない。ちなみに朝鮮語では「助詞」も「助辞」も同音となってしまう、これも都合が悪い。clitic とするの、何をもって clitic とするかにもよるが、しばしば言われるように、my father's の“ 's ”のようなものを想定するとしたら、これも朝鮮語からは遠い。ここではこうしたことがらをふまえた上で語尾と呼んでおく。どこまでも「単語」とは言い難いという点を探っただけである。

また,とりたて語尾に相当する限定語尾は,体言に限ってつくものではない。この点,日本語のとりたて助詞の類と軌を一にする。ここでは体言の項目に入れた。

2. 参考文献

- 남기심, 고영근(1985) 《표준 국어문법론》 서울: 탐출판사
노마[野間秀樹](2002) 《한국어 어휘와 문법의 상관구조》 서울:태학사
李翊燮(1983) 《국어학개설》 서울: 學研社
任洪彬(1998) 《국어문법의 심층 1·2·3》 서울: 태학사
최현배(1937;1971) 《우리말본》 서울: 정음사
- 간노[菅野裕臣](1981) 『朝鮮語の入門』 東京: 白水社
간노[菅野裕臣](1986-7) 「中級講座」 『基礎ハンゲル』 1-12号. 東京: 三修社
간노[菅野裕臣](1988;1991) 「文法概説」 『コスモス朝和辞典』 所収 東京: 白水社
고노[河野六郎](1979) 『河野六郎著作集 第1卷 朝鮮語学論文集』 東京: 平凡社
노마[野間秀樹](2000) 『至福の朝鮮語』 東京: 朝日出版社

3. 朝鮮語文法プロフィール（内容）

番号	文法テーマ	品詞分類	内容	韓国語の例
①総論				
001	朝鮮語の存在様式		話されたことばと書かれたことば, ディスコースとテキスト	
002	言語場		言語場とディスコースとテキスト	
003	言語の階層		ディスコース/テキストから音素, 音声まで	
②形態論: 品詞論				
004	品詞分類	品詞総論	品詞分類の体系	
005	名詞	名詞	実質名詞と形式名詞	학생, 사전, 분, 것, 씨, 때문
006	名詞分類	名詞	名詞分類の体系	
007	形式名詞	名詞	形式名詞	분, 것, 씨, 때문
008	代名詞(1)	代名詞	指示代名詞	여기, 어디, 이것,
009	代名詞(2)	代名詞	人称代名詞	저, 나, 저희, 우리
010	代名詞(3)	代名詞	疑問代名詞	무엇, 누구, 언제
011	数詞(1)	数詞	漢字語数詞	
012	数詞(2)	数詞	固有語数詞	
013	動詞	動詞		
014	存在詞	存在詞	ある, いる, ない, いない	있다, 없다.
015	形容詞	形容詞		
016	指定詞(1)肯定	指定詞	…です, …ですか, 指定詞の-i-の脱落	-이다
017	指定詞(2)否定	指定詞	…ではない,	-가/-이 아니다

018	指定詞(3)尊敬形	指定詞	…でいらっしゃいます. …でいらっしゃいますか?	-이시다
019	後置詞	後置詞	…について. …に関する	-에 대해서 -에 관한
020	副詞	副詞	程度副詞. 頻度副詞. 時間順序副詞. 様態副詞. 陳述副詞. 否定副詞	아주. 자주. 빨리. 아마. 안. 못
021	副詞を作る接尾辞	副詞	…に	안녕히. 많이. 빨리
022	冠形詞	冠形詞	この. どの. 新しい	이. 어느. 새
023	接続詞	接続詞	そして.それで.ところで.	그리고. 그래서. 그런데
024	間投詞	間投詞	はい. いいえ. えっ?あのう.	예. 아니요. 네? 저.
③形態論:用言				
025	用言の辞書形	用言	動詞. 形容詞. 存在詞. 指定詞の辞書形. 語幹と語尾	잡다. 같다. 있다. 이다
026	語基の作り方	用言	第Ⅰ語基. 第Ⅱ語基. 第Ⅲ語基	
027	正格活用(1)	用言	母音語幹の用言①ア. オ. ヨ語幹	보다 가다. 서다. 켜다
028	正格活用(1)	用言	母音語幹の用言②イ語幹	다니다 치다
029	正格活用(2)	用言	母音語幹の用言 ③オ. ウ語幹末 ④その他	오다 배우다 보내다
030	正格活用(3)	用言	子音語幹の用言	받다 . 있다
031	ハダ活用(1)	用言	ハダ動詞とハダ形容詞. ハダ用言の分離性	공부하다
032	ハダ活用(2)	用言	第Ⅲ語基+ハダ	좋아하다
033	指定詞	用言		-이다. 아니다

034	ウ活用	用言	ウ活用	바쁘다. 기쁘다
035	リウル活用	用言	リウル活用	알다. 열다
036	変格活用(1)	用言	シオツ変格	잇다 짓다
037	変格活用(2)	用言	ル変格	모르다. 흐르다
038	変格活用(3)	用言	ピウブ変格	가깝다. 춥다
039	変格活用(4)	用言	ティグツ変格	듣다
040	変格活用(5)	用言	ヒウツ変格	그렇다
④形態論:体言				
041	主格	体言	…が	-가/-이, -께서
042	対格	体言	…を	-를/-을
043	属格	体言	…の	-의
044	与位格	体言	…に	-에게. -한테. -에
045	処格	体言	…で	-에서
046	奪格	体言	…から	-에서
047	終点格	体言	…まで	-까지
048	具格	体言	…で	-로/-으로
049	向格	体言	…へ	-로/-으로
050	比較格	体言	…より	-보다
051	並列格	体言	…と	-하고. -와/-과
052	比況格	体言	…のように	-처럼
053	呼格	体言	…よ	-여/-이여
054	呼格	体言	…!	-야/-아
055	主題限定	体言	…は	-는/-은
056	包括限定	体言	…も	-도

057	指示限定	体言	…だけ	-만
058	範囲限定	体言	…さえ	-조차
059	選択限定	体言	…でも	-나/-이나
060	格語尾限定語尾の複合	体言	…とは. …にも	-하고는 -에도
061	丁寧化: 中断と応答	体言	…ですね. …ですか?	-이요/요. -이요?/-요?
062	複数を示す接尾辞	体言	…たち. …ら	-들. -네
⑤統辞論: 述語と節の構造				
063	文の成分	全品詞	主語. 述語.	
064	語順	全品詞	SOV 構造. <修飾語+被修飾語>構造	
065	日本語と格支配が異なる他動詞	用言	…が上手だ. …がわかる	잘하다. 좋아하다. 알다. 모르다. 만나다. 타다
066	疑問詞疑問文		…って何ですか?	-가/-이 무엇입니까?/뭐니까?/뭐예요?
述語				
067	膠着性	全品詞	膠着	하셨겠더라고요
068	総合的な形と分析的な形	用言	総合的な形と分析的な形	하시지않게 해버리고 말 수 있지 않으셨었겠지요?
069	待遇法	用言	上称形. 中称形. 等称形. 下称形	합니다. 해요. 하오. 하네.해. 한다
070	尊敬	用言	尊敬形	하시다
071	尊敬語	用言	尊敬語	계시다. 드시다. 잡수시다
072	時制	用言	過去と非過去. 過去接尾辞	한다. 했다
073	アスペクト	用言	…している. …する	하고 있다. 해 있다. 한다
074	法	用言	法の階層. 文末法と非文末法	

075	確認法	用言	確認法. するだろう?	하지
076	婉曲法	用言	婉曲法. するが	하는데
077	体験法	用言	体験法. していたよ	하더라
078	発見的感嘆法	用言	発見的感嘆法. するなあ	하네
079	確認的感嘆法	用言	確認的感嘆法	하는구나
080	根拠法	用言	根拠法. するんだが. するものだ.	하거든
081	推量法	用言	推量法. するだろう	할 것이다
082	願望法	用言	願望法. したい	하고 싶다
083	依頼	用言	依頼. してくれ	해 주다
084	態(voice): 能動と受身	用言	する. される	
085	受身の表し方	用言	される	-이-, -히-, -기-, -리
086	使役の表し方	用言	させる	시키다, 하게 하다
087	他動と自動	用言	[...]을...する	
088	他動/自動と能動/受身	用言	他動能動文. 他動受身文. 自動能動文. 自動受身文	
089	他動詞の種類	用言	他動詞の分類	
090	肯定と否定	用言	前置否定と後置否定	안. 못. -지 않다. -지 못하다.
091	文の種類(1)平叙文	用言	平叙文	한다
092	文の種類(2)疑問文	用言	疑問文	하는가
093	文の種類(3)感嘆文	用言	感嘆文	하네
094	文の種類(4)命令文	用言	命令文	해라
095	文の種類(5)勧誘文	用言	勧誘文	하자
節の構造				

096	終止形	用言	します. する	합니다. 해요. 해. 한다
097	接続形(1)原因	用言	するので	해서
098	接続形(2)理由	用言	するから	하니까
099	接続形(3)先行	用言	して	하고
100	接続形(4)反意	用言	しても. するが	해도. 하지만
101	接続形(5)条件	用言	すれば	하면
102	名詞形(1)	用言	名詞形. 名詞節	함. 하기. 하지
103	名詞形(2)已然名詞形:	用言	すること	-고
104	名詞形(3)将然名詞形:	用言	すること	-기
105	名詞形(4)措定名詞形	用言	すること	-지
106	副詞形	用言	するように	하게
107	連体形(1)現在既定連体形	用言	する人	하는 사람
108	連体形(2)過去完成連体形	用言	した人	한 사람
109	連体形(3)予期連体形	用言	するであろう人. するべき人	할 사람
110	引用形(1)	用言	するという	한다고 한다. 한다 한다
111	引用形(2)	用言	するんだって	한대